

# 循環型社会のミクロ経済学（第5回）

## 本日の授業『静脈経済での価格決定原則①』の目標

- ①静脈経済とはどのような経済なのかが分かること
- ②代表的な排出者行動の特徴がどのようなものかが分かること
- ③代表的な排出者の目的とその目的を達成する方法が分かること

## 本日の構成

- 5-0. 静脈経済のミクロ的な動き
- 5-1. 代表的な排出者行動の特徴
- 5-2. 代表的な排出者の目的とその目的を達成する方法
- 5-3. まとめ

### 5-0. 静脈経済のミクロ的な動き

- ①静脈経済のミクロ的な構造と循環
  - (1)静脈経済における代表的な個人・個別市場の分類とは？
  - (2)静脈経済における代表的な個人・個別市場の関係とは？
- ②代表的な静脈経済のミクロ的な動き

### 5-1. 代表的な排出者行動の特徴

- ①排出者行動を観察する方法
- ②代表的な排出者行動の特徴その1
  - (1)廃品（ゴミ）を排出して得られる満足「排出効用」
  - (2)廃品（ゴミ）を排出するために必要なお金「排出支出＝廃品価格×排出量」
    - <a>廃品価格：廃品を取引するときに必要なお金
    - <b>排出量：廃品を排出する数
  - (3)廃品を排出した結果、増減する満足「排出便益＝排出効用－排出支出」
    - <a>排出便益がプラス：満足が増える
    - <b>排出便益がマイナス：満足が減る
    - <c>排出便益がゼロ：満足の増減なし
- ③代表的な排出者行動の特徴その2
  - (1)限界排出効用：廃品を排出する数を1つ増やしたときに増える効用の大きさ
    - <a>少ない数の時よりも多い数の時の方が、限界効用は小さい
    - <b>「排出効用＝限界排出効用の合計」
  - (2)限界排出支出：廃品を排出する数を1つ増やしたときに増える支出の大きさ
    - <a>廃品価格が変わらない場合、「限界排出支出＝廃品価格」となる
    - <b>「排出支出＝限界排出支出の合計」

### 5-2. 代表的な排出者の目的とその目的を達成する方法

- ①目的 「排出便益を出来るだけ大きくするように廃品を排出する事」
  - (1)排出効用：廃品を排出することで得られる満足
  - 一) (2)排出支出：廃品を排出するために必要なお金
  - (3)排出便益：廃品を排出することで増減する満足

## ②目的を達成するための方法 「限界的な意思決定による廃品排出量の選択」

(1) 限界排出効用 > 限界排出支出 → 廃品の排出量の1つ増加を選択

→ 排出量を1つ増やしたときに得られる満足は、失うお金よりも大きい

→ 排出量を1つ増やすと、排出便益が増える (=排出量を1つ減らすと、排出便益が減る)

→ 排出便益の最大化という目的のためには、排出量を1つ増やした方が良い

(2) 限界排出効用 < 限界排出支出 → 廃品の排出量の1つ減少を選択

→ 排出量を1つ増やしたときに得られる満足は、失うお金よりも大きい

→ 排出量を1つ増やすと、排出便益が減る (=排出量を1つ減らすと、排出便益が増える)

→ 排出便益の最大化という目的のためには、排出量を1つ減らした方が良い

(3) 限界排出効用 = 限界排出支出 → 廃品の排出量の増減なしを選択

→ 排出量を1つ増やしたときに得られる満足は、失うお金と同じ

→ 排出量を1つ増やしても、排出便益が増えない (=排出量を1つ減らしても、排出便益が増えない)

→ 排出便益の最大化という目的のためには、排出量を増減しない方が良い

### 5-3. まとめ

①静脈経済は、廃品市場、再生材市場から構成されている。

②代表的な排出者は、自分の便益を出来るだけ大きくする目的のために、廃品の排出をどのようにすれば良いのかを考えなければならない。

③代表的な排出者は、限界排出効用と限界排出支出が同じ大きさとなるように廃品の排出量を定めれば、便益を最大にすることができる。

### Memo